九州地方ユースSDGsフォーラム

開催日）2019年8月2日
会　場）TKP博多駅前シティセンター

九州地区の高校生・大学生が一堂に集合！「SDGs」、「地域循環共生圏」について学び、語り合いました！

主　催　独立行政法人環境再生保全機構 全国ユース環境ネットワーク事務局
協　力　環境省九州地方環境事務所　環境省九州地方環境パートナーシップオフィス
九州地方ESD活動支援センター　全国大学生環境活動コンテスト実行委員会
協　賛　キリンホールディングス株式会社　協栄産業株式会社　SGホールディングス株式会社

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

2019年8月2日、九州地方で活発な環境活動やESD（持続可能な開発のための教育）活動を行う5県10高校、2大学の活動グループが集まり、「SDGs（持続可能な開発目標）」や「地域循環共生圏」について学び、交流しました。
基調講演では「地域循環共生圏の創造 ―日本発の脱炭素化・SDGs構想―」をテーマに、SDGsについて理解を深め、さらにSDGsを達成するための考え方として「地域循環共生圏」について知識を得ました。事例研修では「持続可能な栄養循環が私たちの生命を支える」のタイトルで、NPO法人循環生活研究所によるダンボールコンポストの普及活動等について学習。最後には、SDGsの目標と普段の自分たちの活動とを絡めた「ユースSDGsエール」を話し合い発表しました。

研修後、講師も加わって記念撮影

基調講演　岡野隆宏さん　環境省大臣官房 環境計画課 企画調整室長

地域資源で環境・社会・経済の課題を解決

環境省 環境計画課 企画調整室長の岡野 隆宏さんより、「良い社会、良い地球を作っていこうとみんなで決めたのがSDGsの目標」と、SDGsの意味や採択された背景について丁寧に説明いただきました。生活を維持するのに必要な陸や水域の面積を表す「エコロジカル・フットプリント」の考えのもと、私たちが生きるためには地球1個分では足りないという話には、高校生も大学生も驚きの表情を浮かべました。なかでも世界的に大きな問題となっている気候変動やプラスチックごみの事例を通じて、SDGsの17の目標を達成するためにも「地下資源に頼った大量生産・大量消費・大量廃棄という社会のあり方そのものを変えなければいけない」と強調されました。また、現在環境省が進めている「地域循環共生圏」について学生たちに向けて分かりやすく解説。自分たちの地域にある資源をもう一度見つめ直し、その資源を上手に使って環境の課題を解決しながら、地域の社会を良くして経済的にも元気にすることが、すべてSDGsにつながっているとまとめました。国際的な目標であるSDGsが、自分たちの普段の生活や活動とも密接に関係していることを実感できた講演となりました。

岡野隆宏さん

事例研修　木村真知子さん　NPO 法人循環生活研究所

「半径 2km」の循環で世界は変わる

NPO法人循環生活研究所の木村 真知子さんより、活動事例を紹介いただきました。設立当初より、身の回りにある生ごみや落ち葉を土に返すという土づくりを実践。家庭で簡単に堆肥を作ることができるダンボールコンポストを開発し、厄介者扱いされる生ごみや落ち葉や雑草、海藻のアオサなど、いろいろな有機物を堆肥化する活動などを行っています。また「物事を、自分ゴトで捉えることができる範囲」を半径2km圏内とし、さまざまな資源が循環するとても良い暮らし方ができると力説。現在取り組んでいる「ローカルフードサイクリング」についても、これまで家庭毎で行っていたコンポストを半径2km単位で集めて地域の菜園で堆肥に使い、そこで野菜を作って販売して食卓に並べるという食循環だと説明し、福岡市内3か所での活動について解説。事例研修後の質疑応答の時間では、実際にコンポストをしている高校生と大学生からの質問や意見も飛び出し、学生にとってもさまざまな気付きが得られました。

木村真知子さん

ワークショップ　澤克彦さん　九州地方環境パートナーシップオフィス コーディネーター
長峰秀幸さん　九州地方環境パートナーシップオフィス コーディネーター

ワークショップの前半では、一番関心の高いSDGsの目標を1つ選び、同じ目標を選んだ学生・先生も交じって選んだ目標について知っていることや気になること、問題意識などについて意見交換を行いました。
後半は研修で得た知識やSDGsの目標について考えたことをもとに、自分たちがこれから活動していく上で一番大切にしたい課題やテーマ、活動ビジョンや取組みについて「ユースSDGsエール」としてまとめました。発表では、それぞれの問題意識をもとに力強くエールが投げかけられ、聞き入る学生たちの表情は、今後の活動への意欲を新たにしたようにキラキラと光っていました。
また、ワークショップに並行して行われた教員同士の意見交換では、日ごろの活動づくりの工夫や、発表機会を活用したスキルアップ、生徒たちの自発的な取組みへの期待などについて情報交換・交流の場となりました。

先生も加わって意見交換